

2023年3月期 第3四半期決算説明会 アナリスト・機関投資家向け質疑応答摘録

2023年2月8日
株式会社SUBARU

Q：3Qや4Qの業績の背景をベースに営業利益の実力値の考え方を教えてほしい。

A：3Qは操業が比較的安定していたことに加えて円安もあり、業績は非常に好調。12月末の在庫が比較的多く、未実現利益消去額が大きくなった側面もある。4Qは操業が少し下がってきており、在庫をできるだけ販売につなげていく。来年度計画の精査はこれからだが、もう少し円高になっても、100万台生産できれば今年度レベルの利益を出せるのではないかと考えている。

Q：通期生産計画を下方修正しているが、半導体不足や日米生産拠点の状況をアップデートしてほしい。

A：下方修正9万台のうち、3Qで2万台、4Qで7万台と、4Qで非常に大きな影響。一部の部品に使う半導体が不足していることが要因だが、交渉や代替品開発を進めており、遅くとも6月頃には不足が解消する見通し。車種によって搭載する半導体が異なるため、日米生産拠点への影響はその時々状況次第が、部品供給状況に応じた最適な生産のバランスを取るべく日米間での生産調整を行っている。

Q：米国市場の競争環境に変化はあるのか。インセンティブ単価やバックオーダー数の状況をお伺いしたい。

A：マーケット全体としては需要が軟化し始めているように思うが、SUBARU車への需要は引き続き底堅い状況。足元ではバックオーダー数が減少し、年度前半の5万台レベルから現在は半分程度。減少の背景は、生産制約が出ている車種の受注を止めていたことや、3Qの安定した操業が販売に繋がったこと、お客様が希望するグレードと現時点オーダー可能なグレードのミスマッチ等。インセンティブは、3Q3ヵ月実績が台当たり1,100ドル、4Q3ヵ月の計画が1,300ドルとしている。昨年11月に1%程度提供金利を引き上げ、今後も金利動向やお客様の状況を注視しながら対応していく。

Q：更なる販売価格の見直しは可能か。

A：モデルイヤーの切り替え時に、ほとんどの市場で価格の見直しを行っている。特に米国ではモデルイヤー途中で段階的に価格を上げてはいるが、それ以外の市場は状況を見極めてから対応していく。

Q：米国以外の市場の販売動向を教えてください。

A：カナダやオーストラリア、中南米などでは未だバックオーダーが高い水準で推移していることから、販売は堅調だと認識している。1台でも多く車を生産して、お待ちいただいているお客様に早くお届けしたいと考えている。日本仕向けの商品は半導体不足の影響が大きくなりなく納期は安定している。なお、グローバルのバックオーダー数は引き続き10万台レベルで推移している。

Q : 来年度の100万台生産に向けて、船舶や人員が不足していると聞くがボトルネックになるか。また100万台生産が実現した際は、今年度レベルの営業利益(3,000億円)が出せるのではとのことだが、その前提は。

A : 現時点で当社と船会社との関係もありマネージできているが、注意深く状況を見ながら対応していく。米国での人員不足はSIAやサプライヤーの状況をしっかり見ながら、生産体制に合わせて対応を検討していく。貴金属、鉄やアルミも含めた市況は改善されると思っているが、サプライヤーの皆様のエネルギーコスト等の負担もあり、現時点では中立的。為替は、米国での利下げも考えられるため、足元の130円レベルとは考えておらずもう少し円高方向。足元の台数が限られている中で上級グレード寄りとなっている車種ミックスは、来年度はバランスした構成になると考えている。

以上